※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

グループワーク後半　A 班

（サブ F）　では、ファシリテーターさん、よろしくお願いします。

（F）　はい。5 番ですね。「地球温暖化防止のために、自分の暮らしの中でするべきこと・できること・やってみようと思うことは？」というものを、皆さん、3 分程度で書き出していただきます。ええと、全部読んだほうがいいですか？

（サブ F）　ここまでお願いします。

（F）　ファシリテーターも含めて、各自が付箋に意見を書き、手元にストックしておいてください。1 枚につき、1 つの意見です。意見の質にこだわらず、たくさんの意見を書くように心がけます。はい。お願いします。

（記入中）

（サブ F）　どうでしょうか。

（F）　はい。よろしいですか？　6 番、1 人ずつ意見を読み上げながら、模造紙に貼っていきます。意見をグルーピングするなどして、どのような意見が出ているかを皆で確認しましょう。

（サブ F）　どちらからですか？　先ほどはこちらからでしたね。だから、例えばこちらからでどうですか？

（F）　そうですね。では、こちらの方からお願いします。

――　まず、〔エネルギー消費を減らす〕ということですね。
　それから、〔化石燃料発電を減らす〕。これはマクロな意見ですけど。で、最終的にはなくす。
　ええと、〔代替エネルギーとして〕、再生可能エネルギー、太陽熱とか風力とか、あとは原子力を増やすと。

（F）　ありがとうございます。次の方、お願いします。

――　私は、全てマクロ的に考えました。生活者というのではなくて。
今安倍さんがやっているけれども、〔国際協調・協力認識を持つ〕。日本人として何をやるべきか、みたいな感覚です。
それから、〔マクロ的に日本の外交能力をアップする〕。今やっていますけれども。
それから、これはいわゆる前回までの原子力の話ですけれども、先ほど（休憩中に）質問したのはそういう意味なのですよ。〔日本のリスク対応能力立国を標榜する〕。いろいろな、原子力に関する部分も含めて。
それから、長いこと生きていると分かるのですけれども、ずっと政治が停滞していた。〔前に進める政治に参画する〕。これが、いわゆるマクロ的な日本人として、どうなのかと。

（サブ F）　この辺が少し分かりにくいので、先ほどご自身で補足されたことを加えてよろしいでしょうか？

――　私の意見は全てマクロです。

――　日本の外交力が上がっていないと。

――　やはり日本をもっとアピールすべきかなと。

（F）　ありがとうございました。次の方、お願いします。

――　はい。個人的なところでいくと、〔クールビズ、ウォームビズ〕。まあ〔エネルギー消費を減らす〕に近いですけれども。
それから、エアコンの温度設定を 28 度にする。
あとは、〔エコドライブ、エコカー〕を使う。
あとは、〔木を植える〕。そういうところが、個人のところかなと。
で、マクロという話が出ていたのですけれども、温暖化ガスが問題なので、〔温室効果ガスの排出抑制の技術開発〕をしたらどうかと思います。
例えば、〔CO_2 回収〕とか。
あとは、今使っている化石燃料の使用抑制とか、〔高効率のエアコンや発電機〕とか。
あとは、〔原発〕の話。

（サブ F）　〔原発〕はここでいいですか？

――　はい。〔化石燃料発電を減らす〕というところかなと思います。

（サブ F）　化石燃料のところですね。

――　一応、個人と、日本として、という話です。

（サブ F）　では、次の方。

――　はい。マクロ的になるのですけれども、まあ世界的にもそうですし、日本もそうですし、他の国々もそうなのですけれども、〔教育〕を考えるべき。環境に対しての教育をせざるを得ないのではないかと思います。

これもマクロですけれども、〔節約〕です。

あとは、企業などに対してなのですけれども、〔規約・規則の徹底〕。環境に対して徹底していただくということです。

（サブ F）　〔教育〕の一環でしょうか。

――　たぶんこれは〔教育〕に入ると思います。

――　構造改革みたいな。

――　そうですね。

あとは、〔環境に対してのリスクの再確認〕です。これを作ったらどれだけのエネルギーが出る、CO_2 やメタンがどれだけ出る、ということを再確認していただく。たぶんこれも〔教育〕ですね。

次に、

――　いや、教育というより、むしろ、エネルギーをどうするかという話じゃないですか。

（サブ F）　こちらですか。技術ですか？

――　ええ。

――　あとは、〔ライフサイクルを考える〕。これも同じですね。どれだけ使って、どの辺が最大の利益、という言い方はおかしいですけれども、そういうことを考えるということです。

（F）　ありがとうございます。次の方、お願いします。

――　古い言葉なのですが、“think globally, act locally”、〔考えは地球規模で、行動は足元から〕。

――　ああ、いいことですよね。

――　古い言葉ですが。例えば、私はペットボトルを 20 回以上使います。水筒で。休みの日は駅まで自転車で行くのですけれども、必ずごみを拾いながら行くとか。そういうことです。

あと、私は、日本人というのは、本当は地球にやさしい心情を持っていたはずだし、まだ持っていると思っているのです。例えば、「もったいない」という言葉が世界用語になっていますけれども、それをもう一度きちんと掘り起こすことがとても大切なことだと思います。それが世界貢献につながっていく。もう一度思い出してもらえば。そのときと同じ生活でなくてもいいのですが、その考え方をお持ちの方がまだまだいっぱいいらっしゃる。

それから、「温暖化」をどうしようか、ではなくて、やはり「環境」としてものごとを考えなければいけないでしょう、ということですね。

それから、新しい時代が始まっているのではないかと思っていて、それは、〔集中から分散に〕なのです。集中してものを作るのではなくて、地域社会の中で、分散して利用する。あるいは、それをネットワークで結ぶ。そういう考え方が非常に重要だなと思っています。インターネットなどが開発されたことによって、そういうことができるような社会になってきている。もう時代がどんどん変わってきているということで、それを地球温暖化とか環境という面で活かせるでしょうと。

で、考え方としては、日本人は本来こういう気質を持っているのではないですかと。これをもう一度掘り起こして考える、そういうことを世界に向けて発信できる、と思います。

（F）　ありがとうございます。

では、私。

（サブ F）　チェックをお願いします。（付箋の確認）

――　はい、結構です。

（F）　私は、〔節約〕に近いのかな。〔3R のため分別をしっかり行う〕。

―― 3R？

（F） リユース、リサイクル、リデュースです。

―― ああ、それが 3R なのですか？

（F） はい。その中で、特にリユースはエネルギーをそんなに使わないので。
で、これは近いですけれども、〔資源の節約生活〕。

―― 〔もったいない〕も、ここに来るのでしょうか。

―― 節約の、「思想」でしょうか。

（サブ F） 「考え方」ですね。

（F） 「考え方」だとすると、〔教育〕も？ 違うか。

―― 〔もったいない〕と、〔節約〕は同じですよね？

―― 同じだと思います。考え方として。
ただ、なんていうのかな、「ものを大切にする」というのがさらにあるのですよ。要は、古いものでも、効率が悪そうに見えても、新しいものをどんどん作るのではなくて、それを使い切って、ものを大切にしていくというのは、非常に重要だと思います。それは、計算すると必ずしもエネルギーの節約になっていない場合もあるのだけれども、でも、そうじゃないだろうと。

―― 〔ライフサイクル〕に近いですね。

―― そう、ライフサイクルのこともそうです。

―― 節約とは少し違うのかもしれませんね。

―― 節約も含まれるのです。あとは、ものを大切にする。
それから、3R だと、一番大切なのは、やはりリデュースですよね。リサイクルではなくて。できるだけものを使わない。廃棄物を出さない。

（サブ F）　これでよろしいでしょうか？（付箋の確認）

――　はい、結構です。

（サブ F）　これは、効率が悪くても、ということですか？

――　それは完全に修飾語なので。そうではない場合もあるでしょうから。
　あ、これは、「リデュース」です（付箋のミスを指摘）。3R の中では、リサイクルが一番下で、真ん中がリユースで、リデュースが一番上ですよね。

――　何回か前の議論で、生活レベルを下げるべきだ、下げてもいいという話がありましたよね。

――　それは別に必要ないのですよ。以前と違って、今は情報化の世界ができているので、昔と同じような生活に戻る必要はないと思います。

――　いや、だから、（温暖化）防止のために、生活レベルを下げればいいのではないかとか、そういう、

――　いや、そうではないです。そういうことをしなくても、これができるような科学技術ができてきた。それから、そういう社会構成ができるような世の中に進んできていると私は思います。

――　ああ、そうですか。

――　ええ。だから、まだまだいろいろなことがあるでしょうけれども、エネルギーの問題では、ご存知かどうか分かりませんけれども、「第 4 の革命」という映画がありましたよね。自然エネルギーの関係で。ああいう世界がもう間近に来ている。それが〔集中から分散に〕なのです。エネルギーを大きな発電所で作るのではなくて、それぞれの地域で、自前自足でエネルギーを使って、それをネットワーク化してちゃんと交流するということを、これからは考える時代でしょうと。どこかで大量に作って配布する世界ではない。例えば、エネルギーについてはそうです。エネルギーだけではないです。

――　例えば、今は太陽光発電が各家庭の屋根についていますよね。例えば分散というのはそういう意味ですか？

――　それもあります。だけど、もう地域でエネルギーを作っていくグループができているので。要するに、自前でエネルギーが使えるというエリアができてきているので、そういうことですね。それが、今まではできなかったけれども、これからはできるようになってきたと。

――　確かにそうですね。ただ、そのときに問題になるのは、効率の問題です。

――　ええ。で、その効率を解消できる技術が、ええと、ネットワークを組むやつ、何でしたっけ？　電気でもありますよね。

――　クラウドシステム。

――　ええ、それもそうですし。クラウドはソフトのほうだけど。

――　IT 革命とかではなくて？

――　ええ、まあ、そういうことです。要は、電力を融通し合うこともできるようになってきているので。そういうことをもっと、

――　それが地域性というか、構造改革じゃないけれども、

――　まあ、そういうふうに社会構成全般を見直していくべきではないか、というのがこちらの方の、

――　で、そういうところに投資していく。それが必要ですね。

――　私は、これを思います。（付箋を指さす）

（F）　これは？

――　まあ、政治と言ったらおかしいのだけど、前に進めてほしいのです。

――　確かに、全体的なシステムを考えると、たぶんそれっぽくなるのでしょうね。
　ただ、先ほど言った効率の面から考えると、小さいものをたくさん作るよりは、大きいものを１つ作ったほうが、

――　いや、それは、今まではそうだった。

――　効率の点からすると、

――　いや、ところが、これからはもうそういう時代じゃない。簡単に言えば、小売業がデパートではなくてコンビニが発達したように、エネルギーもそういう世界にもう入りつつある。

――　ああ、そうですか。

――　ええ。私はそう認識しています。

――　たぶん、今、試験をやっているのですよね。例えば、電気自動車のバッテリーとか、あとは各家庭にバッテリーをたくさん置いて、町の中全体で電気を共有するようなことも、試験しつつあるのですね。それがすぐにできるかというと、まあ、少し難しいところはあるのかなと。

――　その前提になっているのは、あるベースのエネルギーがあって、ということなのですよね。

――　そうですね。

――　ベースのエネルギーがある場合には、それが可能なのです。

――　そうですね。今のお話で少し気になったのは、集中から分散をするときに、例えば今のお話は電気の話でしたけれども、電気を何で供給するかということで、分散しても結局小さい火力発電所がたくさんできる、という話になると、温暖化の解決にはつながらないのではないかと。

化石燃料に頼らず、安定的に使える、いい分散電源があるとしても、そこでまた先ほどの生活レベルの話が出てきて、安定のレベルをどこまで求めるかという問題があると思うので。

集中分散というのは、確かに考え方としてはありだと思うのですけれども、クリアしなければいけない問題がいくつかあるなというのが私の感想、感触です。

――　ええと、

――　まあ、そちらの方が言われるように、

――　ネットワークが組めるようになった、ということです。だから、

――　ええ、そういう技術が発達してきて、そういうことができるようになりつつあるというのは、その通りだと思います。

――　あと、エネルギー効率で言えば、火力や原子力はたかだか 30%くらいです。ところが、

――　「地域ネットワーク」という付箋をひとつ作ったらどうですか？　これはすごく大事ですよ。

――　コジェネを使えば、エネルギー効率が 80%くらいにいくわけですよ。

――　私ももんもんと不安というか、不安も含めて、それから、先ほどの集中分散もそうなのですけど、地域ネットワークという話は最近出てきたけれども、30 年前にもそういう話が出てきていて、規制改革も含めて、どんどん進めてきたならば、良い悪いはあると思うのだけれども、もっといい日本ができてきたのではないかなとすごく感じるのですよ。だから、規制改革。何かを起こすときには必ず規制改革、構造改革なのですよ。だから、それを前に進める形に早くやってほしい。今、少しずつなっているけれども、もっとやってほしいという思いがあります。

――　10 年か 20 年前に、小さな水力発電所をたくさん作ったのですよね。用水路とか。いろいろな小型発電所をたくさん作って、分散型で、トータルとしてそれをネットワークでつないでやりましょうと。ところが、実際に運用が始まったら、個々の小さい発電所の管理が非常に大変なのですね。そのコストが非常に高くなってしまった。で、最近聞いていないのですが、あまりうまくいっていないという話も前にちらっと聞いたのですけれども。

――　それは、管理するところが 1 つだったのではないですか？　どこかが統合的にやっていませんでしたか？　自分の財産として、ある人が管理しながら、自分の電気を使うような、本当の「地域」でやっていましたか？

――　ええと、それは例えば農協とか、市役所とか。

――　もっと大きな組織じゃないですか？

――　いや、大きな組織ではなかったです。各自治体とか、農協とか、そういう組織がやっていたのですね。

――　あとは、電力はすごく制約が多いですよね。今までは。

――　そうですね。

――　だからそれは…、まあ、あまり各論に入っちゃうと（笑）。

（F）　そうですね。グルーピングをしてみたらどうかという流れになってきたので、貼られた意見をグルーピングしてみましょうか。

（サブ F）　グルーピングしながら、また。

（F）　そうですね。また前半のように、グルーピングしながら、それに対して意見を言ってください。

（サブ F）　話の流れもそれで変わるかもしれませんので。

――　個人レベルでやる話と、もっと、

――　そう、政策的な。

（F）　ああ、政策的。

――　ミクロとマクロという話が（休憩中に）出ましたよね。

――　ミクロと言ったらおかしいけれども、やはり個人と、

――　〔節約〕は個人ですよね。

――　まあ、マクロとも言えるかな。

――　そうですよね。〔節約〕はどちらにも入るのですよね。国全体でもそうですし。

（F）　〔教育〕は個人ですか？　違うかな。うーん。

――　〔教育〕もどっちもどっちですね。

――　〔教育〕は大きいくくりですよ。

（F）　大きいくくりですよね。真ん中辺りですか？　どちらにも含まれる気がするので。

――　〔日本人として何をやるか〕。そのレベルじゃないですか？

（F）　どちらかに分けたほうがいいですか？

――　個人の話だけ集めてみますか？　たぶん、個人寄りのほうが少なかったと思うので。
〔もったいない〕というお話は、マクロのシステムの話にも当然通じる考えだとは思うのですけれども、

――　というか、考え方ですよね。

――　ええ。だから、どちらにするか分けにくいのですけれども、1 回まずは個人のほうに入れさせてもらって。

――　どちらでもいいです（笑）。

――　そんな冷たいこと言わないでくださいよ。

――　でも、何か他にタイトルがあれば、それを書くのはありでしょうか。とりあえずは（マクロと個人の）2 つに分けて、で、これはどうかっていう感じで。

――　なるほど。
〔教育〕の話。

（サブ F）　ここにも、あ、ここは教育でしたよね。

（F）　そうですね。

――　〔日本人として何をやるか〕。大事なところですね。

〔前に進める政治に参画する〕は、個人ですか？

―― 両方ですね。〔政治に参画〕の意味は、規制改革と構造改革だから。

―― じゃあ、「規制改革・構造改革」というのをマクロ側に書いていただいて、〔政治に参画〕自体は個人側に置きましょうか。

―― 構造改革、規制改革。どっちみち、それができないと止まってしまうので。

（F） 〔行動は足元から〕というのは個人ですか？

―― 困りましたね。でも、これは個人の考え方です。だから個人側ですね。

―― 〔地域ネットワークが大切〕は、

―― 〔集中から分散に〕の近くでしょうか。
あと、マクロ的な話では、構造改革とか、人を教育していきましょうという話。あとは、組織というか、社会のシステムを変えていきましょうという話と、

（F） 「社会のシステム」というのを黄色の付箋に書いてもらえますか。

―― それはたぶん分散集中の話ですね。

―― 今の話は、集中分散もそうですよね。

―― 〔教育〕というのは、世界的な教育ですよね。それが必要だと思います。

―― そうですね。

―― 例えば、中国は（全世界の）4 分の 1 以上出しているのだけれども、

（サブ F） 改革の革の字が分からないのですけれども、書いてみてくれますか。

（F） こうです。

―― ええと、これは化石燃料の使用を減らすという話。

〔「温暖化」より「環境」を考えよう〕は、考え方ですね。こちら側に入れておいて。
あとは、単純に温室効果ガスを減らしましょうという考え方が出ていますね。化石燃料ではなくて代替、

（サブ F）　すみません、書くのが遅くなりました。

――　あ、「規制改革」ですか。

――　これは誰が発表するのですか？

――　こちらの方ですね。
あとは、技術。減らしましょうという話と、技術でなんとかしようという話と、

（F）　技術改革ですか？

――　「技術革新」でしょうか。技術革新で何とかしようと。

（F）　こちらは、

――　「排出抑制」でしょうか。あまり言葉をたくさん出すとまとめにくくなるけど（笑）。
技術で何とかしよう。日本だろ、技術を見せろと。
この付箋は、化石燃料を、

――　ああ、そうですね。

――　あとは、CO_2回収とか、使用量を減らすというのは、技術で何とかしましょうと。
あと、「社会システム」の変更、集中から分散にする、地域ネットワークの話があって。
で、ええと、

（サブ F）　そちらの方が発表されるので、ご自身で、あとでパッと見たときにキーワードが飛び込んでくるように、赤とかいろいろ使って、グルーピングしてみてください。

――　分かりました。まず、最初のキーワードは個人とマクロ。
で、マクロの中に、

（サブ F）　色をつけてやりますか？

――　ああ、そうですね。ファシリテーターさん、お願いします。

（F）　あれ？（笑）

――　線を引くのはファシリテーターさんということですね（笑）。

――　〔教育〕は、自分で書いておいて申し訳ないですけれども、どちらにも通じる話なので。

――　それは非常に重要な話ですよね。

――　真ん中にしましょう。

（F）　どちらもですよね。

――　ああ、そうですね。

――　国際感覚という意味での〔教育〕ですか？

――　それも含めて。トータルの意味で申し上げたのですけれども。

――　影響はどうなるか、とか。そうすると、〔「温暖化」より「環境」を考えよう〕は教育に入るでしょうか？

（サブ F）　ああ、そうですね。

――　若干違うけど、よろしいですか？

――　ええ、いいですよ。

――　では、すみません。入れさせてください。

（F）　〔国際協調・協力の認識を持つ〕。

――　これは「社会システム」のほうでしょうか。外交とか。

（F）　「外交」。

――　ああ、そうですね。

（F）　では、「外交」というのを黄色の付箋に書いていただいて。
〔日本のリスク対応能力立国を標榜する〕。リスク対応ですね。

――　原子力を含めたリスク対応を、

――　「技術革新」のほうでしょうか。

――　そうですね。「技術革新」。

（F）　〔電気の安定的な供給のレベルをどの程度求めるか〕。

――　これは、〔分散から集中に〕に対する懸念なのですよ。

（F）　「社会システム」ですか？

――　その端に置いておいてください。

（F）　〔社会システムに投資することが大切〕。

――　ええと、「社会システム」に入るのでしょうか。

（サブ F）　「社会システム」ですよね。

（F）　〔ライフサイクルを考える〕。これは個人側ですか？

――　どっちもどっちですよね。ええと、例えば、

――　個人というよりは、もう少し広い意味のほうにしておいたほうが。

（F）　広い意味、両方ですか？

――　例えば、エコカー、プリウスとかだと、それを作るコストと、あと、それを廃車にするコストがあるじゃないですか。あと、どれだけ走らせるかのコスト。何年間で何万キロ走らせるとか。それらを考えた上で、判断したほうがいいのかなと。

（F）　個人のライフサイクルではなくて、社会的なライフサイクルですか？

――　ええ、社会的な。

（サブ F）　では、ここですね。

――　では、〔教育〕の中に（笑）。

（F）　まあ、ライフサイクルを「考える」、ですからね。

――　「考える」という意味では、教育だと思います。

――　そういう考えを持った教育をしていきましょうと。単純に、エコカーだから CO_2 を排出しないからいいんじゃないか、ではなくて。

――　そうすると、〔もったいない〕もこちらではないですか？

――　ああ、そうですね。

――　両面ですね。

――　難しい。〔もったいない〕も教育と言えば教育。ちょっとこれはこの辺で。

――　難しいですよね。

（F）　個人とマクロで少し線を引いたほうがいいですか？

――　そうですね。

（F）　点々とか。それとも、囲ったほうがいいですか？

――　まず個人として囲って、

（F）　個人として囲ったほうがいいですか。では。

――　〔教育〕を、

――　〔教育〕は、ミクロとマクロの両面ですよね。

――　すみません、中間的なものを出してしまって。

――　まあ、そういうものですよ。こういうことをすると、必ず困るものが出てくるので。

（F）　これは、こうしちゃいますか。もう少しあちら側に。

――　たぶん、こちらよりも、むしろ話したいのはあちらの「社会システム」のほうですよね。

（サブ F）　ここを中心に発表されるのですか？

――　ええ。何かをやろうとすると、必ずシステムの問題にぶち当たるから。

――　ということで、ここに「構造改革」を持っていって、その下に「社会システム」をこう。

（F）　ああ、なるほど。順番的に。

――　で、「外交」もこの辺に入れる。
　で、横のほうは「排出抑制」とか「技術革新」ですね。

（F）　ああ、まとまった感じがします。

（サブ F）　これは、こう流れているのですか？

――　ええと、まずマクロとしては、〔日本人として何をやるか〕。

（サブ F）　特にこう流れているということではないのですか？

――　まあ、個人のレベルとマクロのレベルでできること、ということでしょうか。

（F）　はい。分かりやすいです。

――　で、「規制改革・構造改革」をして、その中にまず「社会システム」がある。従来の集中から分散になる、私はこれがよく分からないのですね。

――　ああ、確かに。

――　〔集中から分散に〕が引っかかっているんじゃないですか？　もっと説明しては？

――　だから、もうこれからは、エネルギーとか社会構造は集中から分散の時代にしなければいけないし、それが社会の今の問題をいろいろ解決する道じゃないですか。

――　確かにそう言われているのですね。だけど、そのときに効率の問題が常に、

――　引っかかってくるのですね。

――　引っかかってくるのです。

――　それがもうできるような技術が出てきた、ということです。

――　たぶん、そちらの方と、あちらの方と、あとは私もそうなのですが、できる方向の技術が開発されつつある、というところは、

――　うん、それは分かります。

――　そこは我々3人の合意なのですけれども。
　ただ、そちらのほうに行くのが本当にいいのかというところが、まだ今の時点ではハテナがついているので、「社会システム」の直後に〔集中から分散に〕が来ると、これに行くべきだというふうに見えるので、ちょっとそれはハテナがあると。

（F）　ああ。ちょっとハテナみたいな。

――　ええと、改革をしていくということは、確かにやっていかなければいけない。そこはその通りです。その案として、

――　ひとつの提案として、という形で書くべきでしょうか。
　この間に何か挟みますか？

――　要検討ではないか、って。

（F）　改革はしていくべき、

――　改革、改善、そうですね。

――　改善でしょうかね。改善を進めていくべき。

――　私の意見もそちらの方と似ているのだけれども、とにかくネットワークを含めて、これができるようになってきていると。
　今まで、例えば原子力にしても、ここまで来ているのに、ネガティブな部分だけを見てふたをして止めるのか、という意見もあるし。だから、そういうことも呑み込んで、日本型のリスク対応、何か作っていくというのかな。日本人はそれができるのではないかと。

（サブ F）　作っていく、ですか？

――　ええ。これだけ能力がある日本人なのだから、乗り越えて作っていくべきではないか、という発想です。もう原子力はやめましょうよという発想よりも。

――　環境によい社会システムにしていく。

――　むしろ、この付箋は下のほうに持っていくべきではないですか？　結論として。

（F）　ああ、結論に近いのですか？

――　ええ。どうですか？

――　ええ、いいですよ、結論で。

――　結論に近いけど、まだ、

（サブ F）　先ほど、何ておっしゃいました？　環境によい社会システムに変えていくべき、

ですか？

（F）　持続可能な社会システムに。

――　ああ、それですね。うまい。
　で、例えばその案として、集中と分散を考える必要があるし、他の今までやってきたシステムを考えることも必要だし、もっと他の技術も考えていく必要があると。

（サブ F）　持続可能な社会システムに変えていくべき、ですか？

――　変えていくべき、というよりも、変える。もう変えちゃう。変えてほしい。

（F）　改善？

――　改善かな。

――　改善ですよね。

――　まあ、気持ちは分かったと思います。

（F）　それで伝わると思います。

――　日本語って難しいですよね。

――　そうですよね。似たような単語がたくさんあるし。

――　言葉にした瞬間に何か違う感じがするのですけれども、周りの人からすると、どこが違うのっていう。ニュアンスがなかなか。

――　なぜおじさんたちはそんなに「早く、早く」と言うのか、と思うかもしれませんけれども、我々から見ると、もう 30 年も変わっていない部分もあるので。何なのこれは、という思いがあるのですよ。バブルでお金があるときに何も変えなくて。今、少し変わってきているけど。何をやっているのか、というのをすごく意識しているのです。
　若い人とはそこに少しギャップがあるかもしれない。今日本は平和なのに、なぜそんなに変えなくちゃいけないのか、とか、そう思う方たちもいるわけでしょう。

――　この〔外交能力アップ〕というのは、地球温暖化を防止するための政策を作るための外交ということですか？

――　そうです。やはり日本一国だとできないわけじゃないですか。だから日本でやるべきことといったら、国際協調とか、あとは国際連合に訴えていくしか方法はないから。もっと前面に出てね、という意味です。

（F）　そちらの方、あまりご意見を言われていないので、よろしければ。

――　政治や外交に関しては、あまり詳しくないので。言えることはあまりないですね。まあ、工業的なことであれば、いくつか提案みたいな形ではできるのですけれども。

（F）　ええ。これに限らず何かあれば。

――　（30 年前から）変わっていますか？

（サブ F）　うーん、私も年長者のほうですけれども、そのために具体的に何かしてきたかな、というのはありますね。

――　国会運営にしてもそうじゃないですか。国民の意見が反映できない。もう 50 年も 60 年も。なぜ日本ってそうなのか、みたいな。年配者の人は、年配者というか経験者の人は、すごく思いがあると思うのです。

――　まあ、ちょっと、

――　私は結構変わっているように思うのですけどね。情報公開とか。パブリックコメントとか、全然採用しないけれども、やるようになりましたよね。

――　なるほど。

――　全然採用しないけど。ちょっと考えてみると、10 年、20 年前と全然違いますよ、官のシステムが。

――　今ちょっと、

――　ただ、かといってうまくいっているとは限りませんけど。

――　今、ちょっと話が逸れ気味だと思います。
　前半に入れてもらった経済の話を、うまくこの辺に絡めさせられないかなと思うのですが。

――　ああ、いいことを言いますね。

――　ずいぶん欲張りですね（笑）。

――　あなたが仕込んだんじゃないですか。伏線を回収しないと（笑）。

（F）　確かに、次につながると言っていましたよね。

――　あの、ひとつだけちょっと。科学技術の進歩に対して、ふたをした日本の歴史、あ、日本と言うとおかしいな、ふたをした歴史はありますか？　原子力にしても、こういう問題・課題があるから、もう原子力をやめましょうとなっているような。これは、

（サブ F）　それはちょっと、

（F）　このテーマと離れてきますよね。

――　ロストテクノロジーという意味ですか？　要は、失われた技術や、あったけれども、今はもうそういう技術はありませんっていう。

――　ロストテクノロジーというよりも、それはほら、淘汰されるべきだったら淘汰されるのかもしれないけれども、そういうのではなくて、人間の発展に寄与できるような科学技術の分野で、問題があったからと言って、問題が大きくとられて、もうやめましょうというような。今、原子力はある意味そうなっている。そういう歴史があったのかどうか。

（サブ F）　あと 5 分くらい話し合いたいのですけれども、経済のほうに話を持っていってください。

――　では、私から。先ほど私が言ったので。

（サブ F）　あと 5 分くらいです。

――　まあ、地球温暖化というけれども、環境問題として、どういう世界が経済的なのか。ええと、「経済」というよりも、「どういう世界が人間としていい世界なのか」という命題があると思うのですね。

で、それは、お金があることがいい、ということではないと思うのです。自分の生活がきちっと回って、そしてそこに根差した活動ができる。その中で環境負荷を抑えるような生活。日本人はそういうことができる。どこかの日本に来た社長みたいに、何億も給料をもらってというような、そういうことではなくて。

「経済」というのは、むしろそういうふうな、ええと、「豊かさ」ですよね。心も、社会的な環境も含めて。そういうことに結び付けていくことが、ひいては地球温暖化防止のためになるのではないか、というのはどうでしょうか。そういう結論で。私はそう思っています。それが「日本人としての気持ち」にもつながっているのだろうなと。

――　たぶん、日本の国内だけでクローズするときには、まさにそれをやらないといけないですね。

――　まあ、それはあるでしょうね。

――　ところが、今は、温暖化ガスの大部分は中国とアメリカが出しているのです。

――　まあ、そうですね。

――　それをいかに巻き込むか。

――　ええ。それがこの「外交」だし、社会的な、だから、日本人の心をどうやって世界に伝えるのですか、ということです。

――　たぶんこれは非常に重要な役割を果たすのでしょうね。

――　今はこのことを話すのではないですか？

――　いえいえ。前半からのつながりで、後半でも経済的な話をしておくべきではないかということです。

――　なんか、だんだん考えが発散してきましたね。

（F）　そうですね。

――　この「人類としての良い生活」というのは、

（F）　人によって違いますよね。

――　そうなのですよね。我々が今、「こんなレベルで」と言っているレベルというのは、発展途上国からするとものすごくハイレベルで。世界的に見て、たぶん、我々、というか私が許容できるレベルというのは、実は相当高いのではないかと思っています。

（F）　ええ、高いと思います。

――　ただ、そうしたら、世界全員に日本と同じ生活レベルを達成しにいくのかというと、それはなかなか、環境問題的に耐えられないのではないかという気はしています。

――　耐えられないでしょうね。

（F）　クーラーを止めないといけないですよ、今（笑）。

――　というところがちょっとあるなあと。日本みたいに満ち足りていて、もうこのくらいで大丈夫と言っている国はそうかもしれないけれども、今まさに右肩上がりというか、そういう国の人もいるわけじゃないですか。その人たちは、自分の生活を改善しようとして、まさにガンガンやっているわけで。そういう人たちに対して、いや、ちょっと今までくらいで勘弁してよっていうのは、とても通らないですよね。

――　ああ。

――　通らないですね。

――　そういうことを含めて、外交とか、経済を含めてどう解決するかというのは難しいなと。

――　3 週間前にインドに行ってきたのです。1 週間いたのですけれども、かなり疲れましたね。要するに、日本のレベルの生活に慣れている。どっぷり浸かっているわけです。

――　ああ。

――　それで、もし明日からこういう生活をしなさいと言われたら、どうすればいいんだろうって。

――　ああ、インドに。

――　インドにいるときに。ちょっとたまらないなって。まあ、1 週間だけだったのですが。そういう意味で、生活レベル云々という話は非常に難しいような気がするのです。

――　そうですね。

（サブ F）　今のお話はどの辺りになりますか？　「外交」ですか？（付箋の確認）

――　結局外交と経済の話になってしまうのですけれども。

（サブ F）　先ほどの模造紙から、こう、引っ張ってきて、

――　引っ張ってこようとして、失敗していますけれども（笑）。

（F）　（笑）

――　それは大変ですよ。

――　難しいですね。

――　経済の話につなげたい、あ、これもつながる話なのですよね。外交って、当然経済も入っていますので。

――　外交は経済そのものですから。ただ、そう言ってしまうと、やはり最終的な人生観、世界観とか、愛とか、問題がまたずれてしまうから。

（サブ F）　あと 5 分あります。

――　話が難しいですね。

――　建前と本音の世界がすごくあるから。

――　温暖化を防止しようというと、世界の問題ですね。

（F）　発表者は、

――　ええと、前半は、

――　前半は私です。問題提起して、お渡しします。

（F）　ああ、なるほど。

――　そうしたら、発表的にはどうですか？　難しくなってしまいましたけれども。

――　いやあ、非常に混乱しています。

――　まあ、こちらはこんなものがありましたよって。

（F）　発表は 6 分、前半 3 分、後半 3 分です。前半、後半について、それぞれ、「グルーピング」「見える化の結果」「盛り上がった話題」を中心に発表しましょう、ということですね。

――　盛り上がった話題はこれですね。〔集中から分散に〕。
　あとは、「外交」。

――　そうですね。

――　あとは「社会システム」。

（サブ F）　下線を引きますか？

（F）　引いてください。

――　あ、じゃあ、お願いします。

（F）　はい。どこに引きますか？

――　「社会システム」と「外交」。

（F）　「社会システム」と「外交」（線を引きながら）。これが特に盛り上がった話題でしょうか。
　あとは、線を引いておきたいところはありますか？　強調したいところとか。

――　〔集中から分散に〕というのは、実質的に目指すべきところなのですよね？

――　目指すべきポイント。

――　いや、本当に目指すべきポイントかどうかは、技術次第だと思うのですけれども。

――　まあ、ひとつの提案という形で。

――　そうですね。私自身は非常に懐疑的なのです。

――　すごいロスの少ない配信方法が万が一開発されたら、そこから配布したほうがリスクが少ない。そういう、

（F）　ああ。ここは論点になったということですね。

――　論点として残ったところですね。

（F）　あと、ここも大事でしょうか。

――　そうですね。

（サブ F）　とても分かりやすいですね。

――　「人」ですよね。誰か出てこいって思うのだけど、出てこないからなあ。

――　個人的には、先ほど途上国の話もあって、問題を解決するのが非常に難しいので、技術開発のほうでなんとか手が打てないかなと思っているところです。

――　そうですよね。

――　日本人の得意としている分野ですから。そこですよ。

（F）　はい。論点②ですね。

――　外交と経済と、必ずどこかが割を食うので、その割を食う割合を、なんとか技術で和らげようというのが私のスタンスです。

（F）　特に論点になったのは、

（サブ F）　これですね。

（F）　そうですね。これが論点①ですよね。

（サブ F）　で、盛り上がったところがこのアンダーラインですね。

――　あとは、「外交」ですか。

（F）　「外交」も盛り上がりましたよね。「外交」のどの辺りが盛り上がったかな？

――　話になったのは、やはりここですよね。

（F）　ここが一番ですよね。

――　これをもっと、こう、

（F）　もっと強調したほうがいいですか？

――　そうですね。システム自体を、環境問題を解決する方向に変えていかなければいけない、ということですね。

（F）　もうひとつの論点はどこでしたっけ？

（サブ F）　「技術革新」でしたね。

――　まあ、それは私が勝手にそう言っただけで。あまり論点では…、

――　「排出抑制」「技術革新」、そうですよね。両方とも。

（サブ F）　この辺りということでしょうか。

――　まあ、頑張ってできることじゃないかなと思います。

（F）　はい。いいんじゃないでしょうか。

――　発表はいけそうですか？

（サブ F）　改めて発表者の目からご覧になって、分かりにくいところはないですか？　大丈夫ですか？

――　まず、全体としては個人とマクロで考えて。で、個人はまあいいですよね。
　個人とマクロの両方を考えたときに、温暖化に対しては〔教育〕が非常に必要だと。これは大前提で。
　マクロ的に考えると、まず、〔日本人として何をやるか〕。あ、そうか、これはこれですね。

（F）　〔人類としての良い生活ができる「日本」に結びつける〕。これはここでいいですか？

――　そうですね。マクロ的というのは、結局こういうことなので。
　で、「規制改革・構造改革」として、「社会システム」や「外交」を考える。「社会システム」としては、持続可能な社会システムを構築したり、改善する。そのためのひとつの手段として、地域ネットワークは非常に重要であると。で、

（F）　「地域ネットワーク」にも線を引いたほうがいいですか？　大事なところは線を引きなさいということなので。

――　ああ、そうですね。
　〔投資することが大切〕。これは何でしたっけ？

――　社会システムを改善していくためには、そこにお金を突っ込まないといけないですよということです。これに対する意見です。
　改善をしていきましょうと。その案として、〔集中から分散に〕というアイディアが出たりしたと。

（F）　案。どこかに案と書き込みましょうか。

――　で、これ（集中と分散）については、本当に解決できているのか、技術的な論点があったと。
　あと、「外交」に関しては、ええと、

――　温暖化というのはグローバルな問題なので、

――　ええ、グローバルな問題なので、日本一国では解決することはできないと。で、先進国と途上国のバランスをとって、

――　ええ。そういうことが外交上必要になってくるということですね。

――　〔外交→経済〕というのは？

――　外交から経済（笑）。

――　あ、外交力と書いてあるのか。外交力のアップ。

――　その付箋はなくてもいいかもしれないですね。バランスを取るということが難しいのではないか。難しそうだけれども、やらなければいけないと。

（サブ F）　あとは、発表のときに、ご意見とか、補足されることもあるかもしれませんよね。

――　あとは「排出抑制」の話と「技術革新」の話がありました、というくらいで。

――　そうですね。

――　2 分で話そうとすると、結構大変ですね。

（サブ F）　3 分です。

――　前半は 4 分かかるんだって（笑）。

（木村）　皆さん、グループワークはあと 5 分です。15 時半から発表を始めますので、その準備に取りかかってください。

（サブ F）　貼ってみますか？　またそうすると違うところが見えるかもしれないので。

（模造紙をホワイトボードに貼る）

（サブ F）　貼ってみて、こんな感じですが。

――　B 班は 3 枚ありますね。紙が 1 枚増えている。盛り上がっていますね。

（木村）　もう A 班も終わっていますか？

（F）　はい。

＜グループワーク終了＞